



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年11月21日 第1094号「週刊五十嵐レポート」

考える時間を作る

従業員数が10人以下の会社はの社長は、仕事が社長に集中し、さらに従業員に仕事の指示やフォローアップもするため、大変忙しい。これらの要因で戦略不在の会社に陥りやすい。

社長は日ごろ、「バタバタしている」「忙しい」が口癖になっている。外見上は行動的で仕事熱心に映る。しかし、「戦略なき経営は無駄が多い」と言われるように、ふたを開けてみると、業績は悪く、赤字だったというケースが少なくない。これを「バタ貧」という。

バタ貧にすぐ効く薬がない。まずは経営を勉強する「時間」を定期的に作る。「考える時間」を作ることにある。仕事をしている時は、ほぼほぼ体は動いているが頭が働いていない(頭を使っているようだが、使っていない)。次に自分の仕事の内に従業員に仕事を振っていくこと。そのためには、従業員教育が必要になるということに気づく。ここで「組織とは何か」と思い始める。

組織の構成要因は、1. 仕事に対する人の配分(粗利益が直接生む所に人を多く配分する)。2. 組織の階層と役割分担。3. 教育と訓練と評価。4. 処遇。

業績が良くなる会社の社長は、徐々に現場作業から手を引き、従業員に任せていく(役割分担)。空いた時間に経営戦略の研究に当てていき、良い会社の仕組み作りを構築していく。

ある会社の話。後継者はある部門の責任者で他の事業部も見なければいけなかった。常に仕事に追われ、頭を使う時間がなくなった。このままだとバタ貧だ。部門責任者の仕事を徐々に他のスタッフに振っていき、自分はフリーになるよう仕向け、考える時間を作ろうとした。自分が仕事をする方が他のスタッフより早くできるが、ここを我慢。「忍耐力」。多くの中小企業の社長は、我慢して切れなくなり、スタッフに任せず、自分でやってしまう。ここが分かれ目。後継者は、1年後を目途に戦術から手を離れる準備をし始めた。

中小企業には良い人材はなかなか来ない。時間をかけて育て、社長は「考える時間」を作っていく。

ちょっと
出来事

11月15日付日経新聞「世界人口、80億人に」という記事。

70億人に達した2010年から12年間で10億人増えた。90億人に到達する次の節目は2037年になる。80億人から90億人に増えるのには15年かかる見通し。70億人から80億人が12年かかったことに比べスピードが緩む。90億人から100億人にはさらに21年かかる。

人口減少に転じる国は今後増える。20年に韓国やロシアで人口増減率がマイナスとなった。中国も22年から人口減少局面に入ると推計しており、23年には人口規模でインドが中国を上回る。中国だけでなく、タイは29年、台湾も30年に人口減が始まる。欧州、東欧でも人口減少が進んでいる。

労働力の減少を移民で補うことは可能。しかし人口増加が鈍る中で人材獲得競争は激しさを増す。

日本は人口減少による労働力不足により外国人労働者は既に社会に欠かせない存在になっている。今後日本が経済成長するためには、外国人労働者に選ばれる国にならなくてはならない。外国人受け入れも他国と競争する時代になっている。



一口メモ
知識

機を熟すのを待つ

上下すること常なきも、邪(じゃ)をなすにあらざるなり。自分の地位や立場に止まらず、常なく進んだり退いたりするが、邪をなすわけではない。

これは、物事をなし遂げる前に、兆しを察し、時が熟すのを待つ態勢である。

たとえば、相撲の仕切り、陸上のスタート前の姿勢のように、あえて不安定な立場を取り、危ういバランスに身を投じる。動くべき時に動くには、揺らぎのただ中で、気を熟するのを観てとるのである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村壺希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

